

2023 年度 東京蜘蛛談話会例会

1. 日時 2023年12月3日(日) 10時より(開場9時30分)
2. 場所 東京環境工科専門学校 〒120-0022 東京都墨田区江東橋3-3-7
JR 総武線 東京メトロ半蔵門線 錦糸町駅南口から徒歩3分
3. 連絡 当日は、東京環境工科専門学校の電話が使用できないので、緊急時には以下に連絡ください。
加藤輝代子 090-7012-6458 初芝伸吾 090-6156-8378
4. その他 パソコン、プロジェクター、用意いたします。
5. 講演をご希望の方は、演題と使用希望機材
(スライド、OHP、コンピュータ)
を事務局初芝までお知らせください。

〒186-0002 東京都国立市東3-10-8 コンフィデンス高垣 105
 有限会社エコシス 初芝伸吾
 mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.jp
 Tel : 042-501-2651 Fax:042-501-2652

● 錦糸町駅南口から徒歩3分です。



東京蜘蛛談話会 2023 年度採集観察会

1. 期 日： 第3回 2023年10月15日(日) 第4回 2024年2月18日(日)
2. 場 所： 三輪の森(東京都町田市三輪の森ビジターセンター周辺)
3. 集 合： 集合10:00
小田急小田原線鶴川駅北口
バス4番乗り場から、午前10時30分発「フェリシアこども短期大学」行きのバスで「妙福寺前」下車後、徒歩で移動します。
4. 世話人： 仲條竜太
TEL: 070-5578-1416

京都でヒトエグモを採集した

貞元己良

前回、2021年11月2日に京都の藤野氏が調査している上御礼神社に偶然立ち寄り、ヒトエグモを見つけた。調査地だったとは全然知らなく大変申し訳なく謝罪の意味も含め、翌2022年の通信に採集報告をした。

今年2023年3月9日、10日に京都、奈良大好きお婆さんの妻が、娘とともに『冬の京都、非公開文化財特別公開』の旅パンフレットを入手して、拝観を計画していたものの娘から会社の年度末決算期で休みが取れないから「無理」と言われ急遽、暇そうにしている夫を指名し、夫も文化財には興味がないが、「クモを採集する時間を与えてくれるならば」と二つ返事で了承した。行った場所は、妻の常宿である京都駅の上にあるホテルからツアーバスを利用し初公開の妙心寺の壽聖院・玉鳳院、大徳寺の総見院・芳春院、徳川家康・秀忠・家光将軍の肖像画と位牌を祀る権現堂も16年ぶりに拝観できるという浄土宗総本山の知恩院、その他いろいろ巡ったが、もともと興味がなかったのを忘れた。

10日の日に行った住所で言えば、京都府京都市東山区林下町400番地の浄土宗総本山の知恩院内で妻の計らいで約30分自由行動となり、壁と屋根の下ひさし部分を見ていたら沢山はいないもののオオヒメグモの全ステージが見られ、さらにその巣をよく見たら糸で巻かれ食べられているクモや食べられて捨てられる寸前のクモが見られ、勘が働き、すべて採集してきた。自宅の顕微鏡の下でこの個体を見てみると腹部は萎縮若しくは消失しているものの頭胸部、歩脚の外骨格とパルプ部分が完全に残った「ヒトエグモの雄成体」であった。状況から察するに、ヒトエグモは夜行性で成熟したオスは広い壁を頻繫に徘徊し成熟したメスを求めている。と考えられるが、京都の寺は夜間自由

に出入りできる場所は皆無だし、外壁も壁沿いにセンサーが完備され昼間でも容易に近づくことができない為、発見・採集記録が少ないものと推測できる。本当はどこの寺にも沢山いる普通のクモかもしれない。と感じた。

多摩日より (8) 広徳寺で見かけたクモたち

新海 明

20世紀末の多摩地域での私のクモの観察地は五日市の広徳寺が中心になっていた。広徳寺の裏手に広がる墓地には鳥類研究家でクモにも造詣の深かった高野伸二先生のお墓もあった。ここから見渡すと河岸段丘上に広がる畑地をつらぬく旧街道沿に沿って五日市の市街が展開していることが良く分かった。

当時の私はすでに中高の教員を辞めて塾の講師となっていた。働くのは週に3日間にして、あとはクモの観察に明け暮れていた…というとかっこが良いが、調査法や目的について悩みに悩んでいた。今となっては「それまでやってきた事を我慢して継続していたらよかったのに」と思うのだが、これが難しかった。なにか新しい目的を見出し、新たな方法を身に付けてやらねばならないのではと脅迫観念に捉われていたように思う。古来言い古された「四十にして惑わず」である。私にもこの金言が当てはまっていたのだが当時は気が付かなかった。

ここ広徳寺にはムツトゲイセキグモの投げ縄網を求めてやってきたのだが、夜な夜なこの地に通うごとにさまざまなクモたちの夜の生態を目の当たりにした。キザハシオニグモが他種のクモ網に侵入して、その網の糸を食べている光景に出会ったり、ミジングモ類のアリを狩る行動を観察したり、トリノフンダマシとオオトリノフンダマシの「あいのこ」と思われたトリフン（後になって新種の可能性があると言谷川さんに聞いた）とその卵のうを見つけたのもここだった。

ムツトゲの観察と同じくらい時間をかけて調べたのがナガコガネグモとジョロウグモの餌の比較だった。これは宮下直さんの影響を多分に受けたものだった。ナガコガネが草原に多く、ジョロウが市街地にしぶとく生き残っている理由をデータに基づき語りたかったのであった。このような生態調査の合間に、いつもイセキグモ類やらトリフン類、特にツシマトリノフンダマシの存在を意識して探して



いた記憶がある。ツシマはかつてこの広徳寺で採集されたことがあったのだ。結局のところ、この場所を含め私はこのクモに出会うことは一度もないままに終わりそうである。さらに関東地方では希産種に当たるオダカグモやゲホウグモなどもこの周辺に広がる桑畑で見かけた。

JR 五日市駅を 23 時過ぎに出る立川方面への最終電車に間に合うように夜の広徳寺を離れ、五日市のしんと静まり返った商店街を、息を切らして駅まで急いで歩いたことも、すでに遠い昔の記憶になってしまった。

入退会は：

事務局 初芝伸吾 〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8

コンフィデンス高垣 105 有限会社エコシス

E-mail : hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

通信原稿投稿先：

谷川明男 〒247-0007 横浜市栄区小菅ヶ谷 1-4-2-1416

E-mail : dp7a-tknw@j.asahi-net.or.jp

通信の原稿締め切りは、4 月末、8 月末、12 月末です。

KISHIDAIA 原稿投稿先：

鈴木佑弥 〒770-8070 徳島市八万町向寺山（番地なし）徳島県立博物館

E-mail : sasaganiya1206@gmail.com

ファイルサイズが大きくてメール添付できない時には、ドロップボックスやグーグルドライブの転送機能・共有機能、宅ふぁいる便やデータ便などの転送サービスをご利用ください。

キシダイアの原稿締め切りは、6 月末、12 月末を目安とし、予算枠内のページ数まで先着順といたします。

東京蜘蛛談話会の会費は、一般 4000 円、学生 1000 円です。

（しばらくの間会費を値下げしておりましたが、2022 年度より元の水準に戻し、一般 4000 円、学生 1000 円といたしました。）

会費は郵便振替口座 00170-8-74885 東京蜘蛛談話会へお願いします。

会費・住所変更は：会計担当 須黒達巳

〒150-0013 渋谷区恵比寿 2-35-1 慶應義塾幼稚舎

TEL : 080-5683-2765 E-mail: t.s.schlegelii@gmail.com